

りんご生育情報(7月号)

令和8年7月23日発行

【発行】宮城県登米農業改良普及センター

電話 0220-22-6127

HP <https://www.pref.miyagi.jp/soshiki/et-tmsgsin-n/>

普及センターのホームページでは、過去の技術情報も掲載しています。お手持ちのスマートフォンなどで右のQRコードを読み取るとホームページへ移動できますので、ご利用ください。



1. 果実肥大状況

7月10日現在の「ふじ」の果実肥大状況は、タテ径53.0mm（平年比116%）、ヨコ径58.5mm（平年比119%）と平年より大きくなっています。

表1 果実肥大調査結果（mm）

	タテ径	ヨコ径
本年	53.0	58.5
平年値	45.8	49.1
平年比	116%	119%

※東和町の測定値。

2. 病害虫の発生状況

宮城県病害虫防除所が6月24日に発行した発生予報第3号では、斑点落葉病の発生量が「やや多い」と推測されています。モモシンクイガの発生量は「平年並み」となっています。

病害虫名	発生量	予報の根拠
斑点落葉病	やや多	巡回調査の結果、新梢葉における発生地点率は平年よりやや高かった。
モモシンクイガ	平年並	前年の発生量が平年並だったことから、越冬量は平年並みと推測される。

（1）共通事項

- ・病害虫の薬剤抵抗性の発達防止のため、RACコードが同じ薬剤の連用を避け、計画的にローテーション散布を行う。
- ・DMI剤（FRACコード：3）、QoI剤（FRACコード：11）及びSDHI剤（FRACコード：7）並びにこれらの混合剤は、耐性菌対策のため、それぞれ年間2回以内の使用とする。
- ・果樹の農薬使用回数は、前作の収穫後からのカウントになるので注意する。

（2）斑点落葉病

- ・発病葉率の高いほ場が確認されたことから、薬剤防除の際は、発病した新梢や徒長枝を取り除き、十分量の薬液を散布ムラのないように散布する。
- ・本病は感染から発病までの潜伏期間が数日から7日程度と短く、最低気温が20℃以上で3日以上降雨が続くと急増する傾向がある。今後の発生に注意するとともに、曇雨天が続く場合でも晴れ間をぬって防除を実施するなど、適期防除に努める。

（3）モモシンクイガ

- ・産卵場所となりやすい「がくあ部（果頂部）」をよく観察するなどして、防除適期の把握に努める。
- ・殺虫剤散布の補助手段として、交信かく乱剤の使用も効果的である。
- ・被害果（ほ場周辺のうめ、もも、すもも等も含む）は、次世代の発生源となるので、幼虫

脱出前に取り除き、5日以上水漬けするなどして適切に処分する。

3. 今後の管理について～夏期管理～



(1) 支柱立て、枝つり

◆ねらい

- ①樹全体にむらなく日光の透射を図り、葉の働きを盛んにし、果実品質の向上と翌年の花芽分化発達を良好にする
- ②散布薬剤の到達、付着を良くし、病虫害防除効果を高める
- ③枝の配置を矯正し、枝の裂傷、折損の防止、樹形の維持・確立を図る

◆実施上のポイント

- ・骨格枝…しっかりした支柱を用いて、枝の状態を見ながら押し上げるように立てる。
- ・側 枝…マイカ線などの縄で吊り上げる。樹冠下の作業が容易になることから可能な限り枝吊りを実施する。
- ・樹形構成に十分注意し、上げるべき枝と下げるべき枝を区別して実施する。

(2) 下草管理

草生栽培園では草刈機による刈り取り、苗木養成畑などは人手による除草が望ましいですが、労力的に間に合わない場合や草刈機を使用できない場所では除草剤の利用も検討しましょう。

◆実施上のポイント

- ・一年生雑草、多年生雑草の発生状況に応じて薬剤を選択する
- ・雑草の密度が低い場合⇒散布量または投薬量の少ない方を選択
雑草の密度が高い場合⇒散布量または投薬量の多い方を選択
- ・**散布時期は雑草の草丈が 30cm 以下**とし、種子の飛散を防ぐため雑草の開花前に散布する。また、薬害を出さないため樹体に直接かからないようにする。

表 2 主な除草剤の使用法（令和 8 年 7 月 8 日登録状況）

除草剤名	作物名	適用雑草	希釈倍数 使用量	使用方法	使用時期	使用 回数	散布液量
バスタ 液剤	りんご	一年生 雑草	300～500ml/10a	雑草茎葉 散布	収穫 21 日前まで (雑草生 育期)	3 回 以内	100～150L/10a 少量散布：30～40L/10a
		多年生 雑草	500～1000ml/10a				
ザクサ 液剤	りんご	一年生 雑草	300～500ml/10a	雑草茎葉 散布	収穫 21 日前まで (雑草生 育期)	3 回 以内	100～150L/10a
		多年生 雑草	500～1000ml/10a				
ラウンド アップマ ックスロ ード	果 樹 類 (かん きつを 除く)	一年生 雑草	200～500ml/10a	雑草茎葉 散布	収穫 7 日 前 まで (雑草生 育期)	3 回 以内	通常散布：50～100L/10a 少量散布：25～50L/10a
		多年生 雑草	500～1000ml/10a				
		スギナ	1500 2000ml/10a				

参考：「りんご生産指導要項 2024-2025」（公益財団法人青森県りんご協会）
「みやぎの果樹指導指針」（宮城県）

🍏 農薬危害防止運動実施中 🍏（6月1日～8月31日）

◆農薬はラベルをよく読んで適正に使用しましょう！

